

寅さん歩 その 23

東京の博物館めぐり－50

足立区－1

平野 武宏



今回は足立区の博物館めぐり（2021年12月訪問）です。足立区は東京23区の東部の北に位置し、埼玉県に隣接しています。寅次郎、2013年の東京の富士塚めぐりと2014年の健康ご利益めぐりで足立区を訪問していますが、以降はご無沙汰でした。右上の写真は区立郷土博物館の全景です。白い壁の建物が印象的でした。独断と偏見の紹介と感想ですので、詳細を知りたい方は博物館のホームページをご覧ください。最寄り駅は代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[足立区立郷土博物館] 足立区大谷田 5-20-1

最寄駅 東京メトロ千代田線 綾瀬駅からバス利用

寅次郎、綾瀬駅西口から東武バス 六ツ木都住行に乗り、東湊江庭園下車で訪問しました。JR亀有駅からのバスもありました。足立区立郷土博物館は1986年(昭和61年)開館し、足立区の歴史、生活文化、美術に関する資料の収集・保管をするとともに展示などによる事業活動を実施しています。2009年(平成21年)には常設展のテーマの一部を一新して、リニューアルオープンしています。新テーマは「江戸東京の東郊(とうこう)」です。写真下左は入口の門、写真下右は郷土博物館の入口で、お城か大名屋敷のような趣の建物です。



現在の足立区の原型は、江戸東京という大都市の東郊となったことから始まります。東郊とは、江戸の都心部から広がる近郊地域を東西に分けて、「東側の近郊」という意味で、現在の足立区、葛飾区、江戸川区とその周辺を示しています。東郊は丘陵の多い西郊に比べて、大河川の下流域にあたる平坦な地域です。そこで生まれたさまざまな東郊の特徴が、現在の足立区の実現と生活や文化を形づくっています。

1階の第一展示室の展示は「江戸・東京と結ばれた農村の誕生」です。江戸に幕府が開かれると東郊は稲作農村となり、江戸・東京の重要な米どころとなりました。肥料としては都市から出される下肥を豊富に使うことが出来ました(写真下左)。東郊の生鮮野菜は流通の拠点 千住市場(やっちゃ場)で問屋の店先に並べられました(写真下右)。



花の栽培(写真下左)も農業の一つとして行われ、季節ごとに神仏に供える花を栽培し江戸市中で売られたのが始まりです。写真下右は千住市場の資料です。



2階は4面の回廊を利用したギャラリーと第二展示室があります。「東郊の近代的発展」、「東郊の変貌」の展示です。東郊は都市の人々を迎える観光地の役割と縁起物などの生産で江戸文化を創り上げる役割もしていました。

明治時代に入ると、東京に隣接し、川と地下水、平坦な土地、舟運の便に恵まれた土地として工業化が進みました。写真下左は千住桜木にあった東京電力の火力発電所で見える場所を変えると煙突が4本～1本に変化する「お化け煙突」と呼ばれた資料です。



多種多様な工業が広がりるとともに伝統的な職人技もありました。写真上右はセルロイドの人形と金型、写真左は手彫りの麻雀牌です。工業の町 東郊も第二次大戦ではB29による激しい空襲を受けたそうです。

興味のあった展示は「東郊の食」でした。写真下左の中の右上が「農家の冬の夕食」（けんちん汁、ほうれん草のおしたし、沢庵）、右下はお正月の雑煮」、左は「祭りのごちそう」（普段は使わない油・砂糖・もち米をたっぷり使い、厚揚げ、がんもどきと野菜の煮物、うずら豆の煮物、野菜のてんぷら、あんころもち、かぶの漬物、赤飯）です。



写真上右は「勤め人の食事」(おかずは共稼ぎで台所も狭いので手軽なお持ち帰り惣菜のコロッケです)。いずれも地元の野菜が食卓にのっています。

写真下は「足立の名物」です。写真内の左上は「文化フライ」(ガムシロップを



入れて練った小麦粉をつけて揚げたもので下町の縁日で売られた人気商品)、左下は「ボッタ」(水で溶いた小麦粉を焼いたもんじゃの具はなしで駄菓子屋の鉄板で焼き子供達に人気)、右上は「草団子」、右下は「すずめ焼き」(小鯛の背を開き、串をさし、たれをつけ炭火で焼いたその姿が雀に似ていたので付いた名で千住の名物)です。

写真下は第2展示室の「都営住宅とくらし」です。戦後、伝統的な農村的集落とは異なる新しいまちが誕生、人口の急増に対して東京都は住宅を供給しました。当時の住宅が復元されていました。



足立区の博物館めぐりはここだけですが足立区の歴史がよく理解できました。開館時間は9時～17時。休館日は毎週月曜日（祝日・休日の場合はその翌平日）、年末年始、展示入替、館内消毒日（不定期）です。入館料は一般200円（高校生以上）、70歳以上と障がい者手帳の保持者およびその介護者は無料です。無料公開日もあり、第2・第3土曜日、5月5日、5月18日（ICOM国際博物館日）、10月1日（都民の日）、11月3日です。

足立区は都内23区で2番目に多い富士塚（12基）が残されています。

2013年（平成25年）12月 寅さん歩31及び32 東京の富士塚めぐり—7および—8をご覧ください。

足立区には弘法大師が立ち寄り創建したと伝わる西新井大師があります。

2014年（平成26年）7月 寅さん歩61 健康ご利益めぐり—23をご覧ください。

〔こぼれ話—1〕 東湊江庭園（ひがしふちえ ていえん）

郷土博物館に隣接の庭園で造園家 小形研三（1912年～1988年）が設計した野趣あふれる回遊式日本庭園です。小形研三は新宿公園、万国博日本庭園などを作庭したほか、海外への日本庭園文化の紹介、後進の育成など造園分野の発展に貢献された方です。



[こぼれ話-2] ワシントンから里帰りの桜



郷土博物館を出ると、写真左の桜の木があり、説明板によると「明治から昭和のはじめ、足立区江北から千住には、「荒川堤桜」という国の桜の名勝がありました。ソメイヨシノやヤエザクラなど多種の桜は多くの彩りで「五色桜」と称されました。

明治45年（1912年）、東京市長が日米友好の証として、この桜から3000本の苗をワシントンに送ったのが有名なポトマック河畔の桜です。しかし荒川堤桜は堤防工事や公害で衰退してしまいました。足立区では「五色桜」を復活のため、昭和56年（1981年）、ポトマック河畔の桜の里帰りを実施しました。ここに植えられた桜は、その一部です」と記載。咲いた時に見に来たいですね。

[バーチャルウォーク途中報告]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。現在、寅次郎は「バーチャル 東北復興支援絆ウォーク」で福島県相馬市から青森県八戸市までの410kmに挑戦しています。

2022年1月16日、福島県相馬市スポーツアリーナを出発、1月31日、宮城県松島海岸IC（福島県相馬市から64km）に到着しました。

「東北支援絆ウォーク」は東日本大震災10年を迎えるにあたり震災の記憶を風化させない、復興10年を期に東北の発展を支援するために日本ウォーキング協会などが主催団体となり、2021年3月から行われています。

寅次郎、藤沢から東京へ移住（2012年8月）して「寅さん歩」を書き始めて10年を迎えます。

新型コロナウイルスの新しい変異株（オミクロン株）が見つかり、世界中で感染拡大が始まり、日本でも感染が拡大しています。東京都や神奈川県などは2022年1月21日からまん延防止等重点措置が適用され、例会も中止となりました。毎日の運動不足対策にはマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計し

て楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
毎日の歩いた距離をコースシート上のマスの色塗りして進むバーチャルウォークはやりがいがあります。
FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。
歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝